

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和5年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予報第8号（11月）を発表したので送付します。

鹿児島県病虫害防除所

〒899-3401

南さつま市金峰町大野 2200

TEL 099-245-1081 (代表)

099-245-1157 (直通)

099-245-1149 (FAX)

テレホンサービス

鹿児島 099-296-6430

296-6431

ホームページアドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/kagoshima>

メールアドレス：[nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp](mailto:nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp)



## 農薬の安全使用に努めましょう

### 農薬安全使用五つの柱

- 1 使用する人の安全 使用者自身の健康管理，安全使用
- 2 作物に対する安全 適期，適正防除で薬害防止
- 3 農産物に対する安全 消費者へ安全な農産物を供給  
(農薬安全使用基準の遵守)
- 4 環境に対する安全 周辺環境への影響防止  
(周辺住民等への危被害防止)  
(河川，湖沼，海などへの汚染防止)  
(養蚕，養蜂などへの危被害防止)
- 5 保管管理の安全 保管管理の徹底で事故防止

## 農薬ラベルを確認しましょう

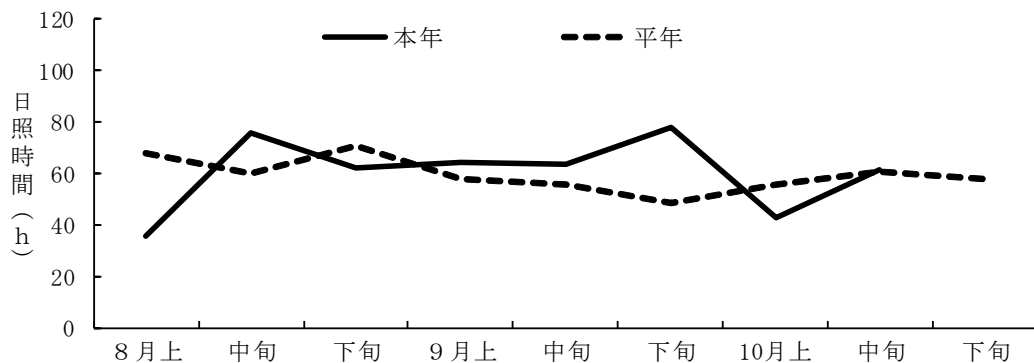
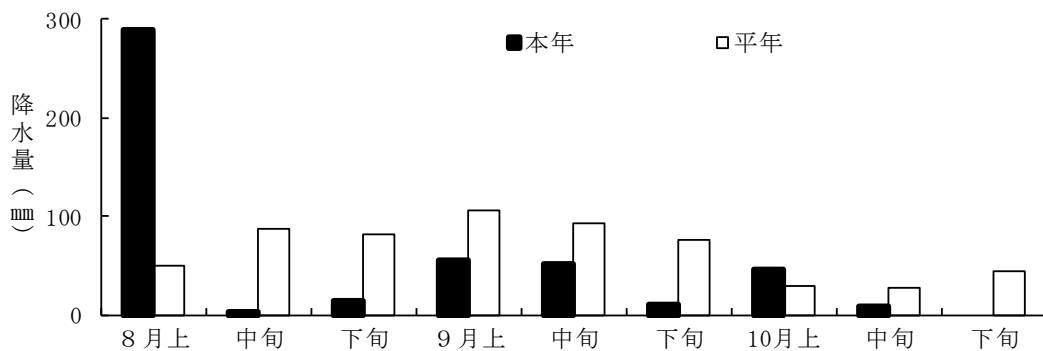
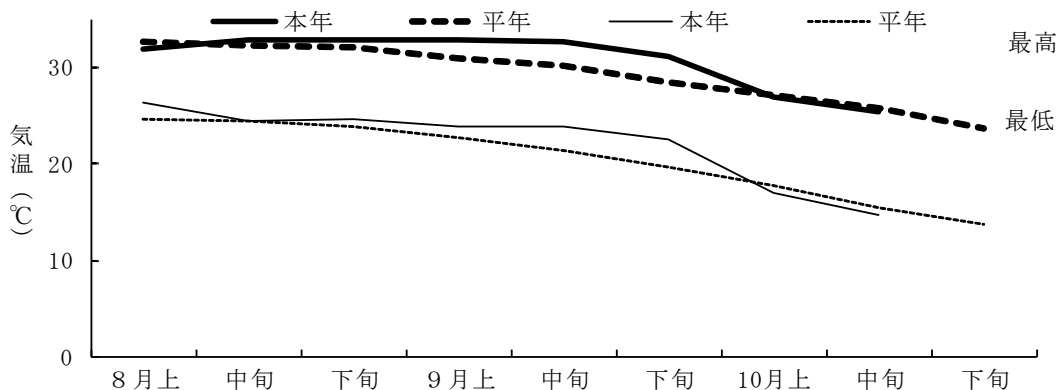
## 農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう

【気象概況】

I. 向こう1か月の予報（10月28日から11月27日） 令和5年10月26日 鹿児島地方気象台 発表

要素	地域	確率（％）			概要
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	九州南部	20	40	40	気温は九州南部では平年並か高く、奄美地方では平年より高い。降水量は両地方とも平年並か少なく、日照時間は平年並か多い見込。
	奄美地方	20	30	50	
降水量	九州南部	40	40	20	
	奄美地方	40	40	20	
日照時間	九州南部	20	40	40	
	奄美地方	20	40	40	

II. 8～10月の気象情報（鹿児島地方気象台 観測点：加世田）



### 【病害虫発生予報の概要】

作物		病害虫名	発生量		
			現況	予報	
野菜	キュウリ	うどんこ病	やや少	並	
		アザミウマ類	並	並	
		コナジラミ類	少	並	
	トマト	コナジラミ類	並	並	
	ピーマン	アザミウマ類	並	やや多	
	イチゴ	うどんこ病	少	やや少	
		炭疽病	やや少	やや少	
		ハダニ類	多	多	
		アザミウマ類	やや少	並	
	エンドウ類	うどんこ病	多	多	
		ハモグリバエ類	やや少	並	
		アザミウマ類	並	やや多	
	野菜・花き共通		ハスモンヨトウ	やや多	多
			シロイチモジヨトウ	やや少	並
	花き	キク	ハダニ類（県本土，施設）	並	やや多
アザミウマ類（県本土，施設）			やや少	並	
〃（奄美地域，露地）			やや多	多	
果樹	カンキツ	かいよう病（県本土・熊毛地域）	並	並	
		〃（奄美地域）	並	並	
		黒点病（県本土・熊毛地域）	並	並	
		〃（奄美地域）	やや多	やや多	
		ミカンハダニ（県本土・熊毛地域）	やや多	やや多	
		〃（奄美地域）	多	多	
茶樹	チャ	カンザワハダニ	やや多	やや多	

## 【病害虫発生予報】

### I. 普通作物

#### 防除に関する今月の留意事項

##### 1. サツマイモ

###### (1) サツマイモ基腐病

発生が見られたほ場では、次年度の発病リスクを軽減するために、以下の防除対策を徹底する。

<本ほ><種いもほ場> (収穫後の残さ対策)

ア 層いもやしよ梗等の残さは、収穫後速やかにすき込みを行う。

イ すき込んだ後も定期的(1回/月程度)に耕耘して、残さの分解を促す。

ウ 本病が多発し、塊根被害が目立ったほ場では、次作はサツマイモ以外を2年程度輪作するか休耕する。

サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、鹿児島県 ([https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570\\_20221018104909-1.pdf](https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20221018104909-1.pdf)), 農研機構 ([https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/files/stem\\_blight\\_and\\_storage\\_tuber\\_rot\\_of\\_sweetpotator04.pdf](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator04.pdf)) をご覧ください。



鹿児島県  
サツマイモ基腐病防除  
対策マニュアル(第3版)  
令和4年10月改訂



農研機構  
サツマイモ基腐病の  
発生生態と防除対策  
(令和4年度版)

## II. 野菜

### 1. キュウリ

#### (1) うどんこ病

##### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

##### イ 予報の根拠

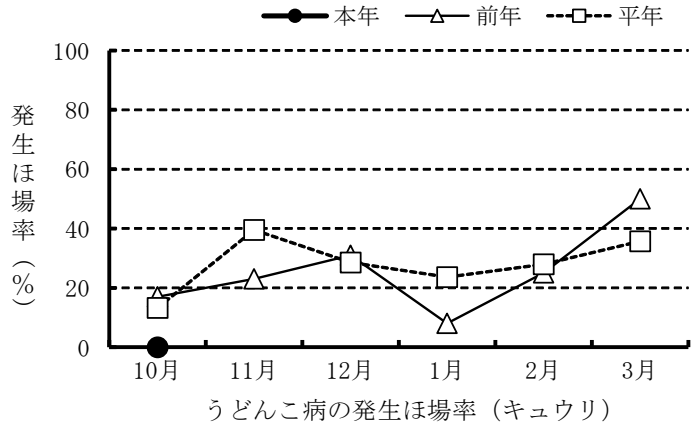
- (ア) 調査結果 発生量：やや少  
発生ほ場率 0% (平年13%)  
：やや低い (-)

##### (イ) 気象予報

降水量：平年並か少ない (+)

##### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 発病葉は早めに除去し、ハウス外に持ち出して処分する。
- (イ) 多発すると防除が困難になるので、早めに防除する。
- (ウ) 薬剤は下位葉や葉裏に十分かかるよう散布する。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤 (RACコード参照) のローテーション散布を行う。



#### (2) アザミウマ類

##### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

##### イ 予報の根拠

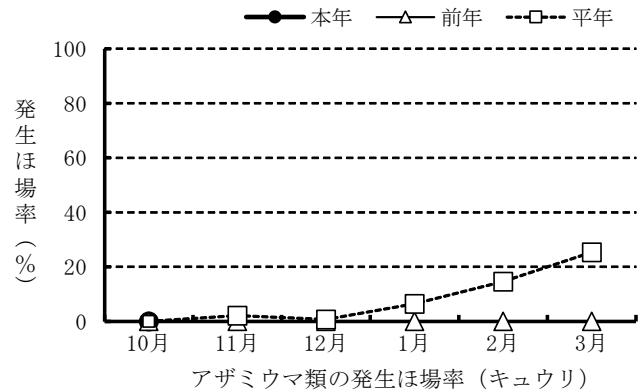
- (ア) 調査結果 発生量：並  
発生ほ場率 0% (平年0%)  
：並

##### (イ) 気象予報

気温：平年並か高い (+)

##### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) キュウリ黄化えそ病の病原ウイルスを媒介する。ハウス開口部 (サイド等) 等に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤 (RACコード参照) のローテーション散布に努める。



(3) コナジラミ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

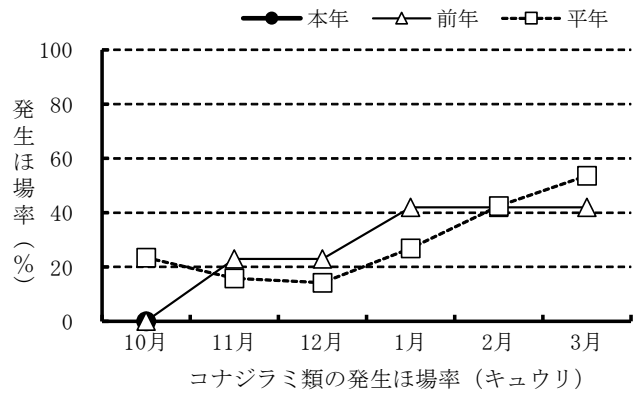
- (ア) 調査結果 発生量：少  
発生ほ場率 0% (平年23%)  
：低い (-)

(イ) 気象予報

気温：平年並か高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) キュウリ退緑黄化病の病原ウイルスを媒介する。生育初期に本病が発生すると被害が大きくなるので、黄色粘着トラップを設置して早期発見・早期防除に努める。
- (イ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤 (RACコード参照) のローテーション散布に努める。



2. トマト

(1) コナジラミ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

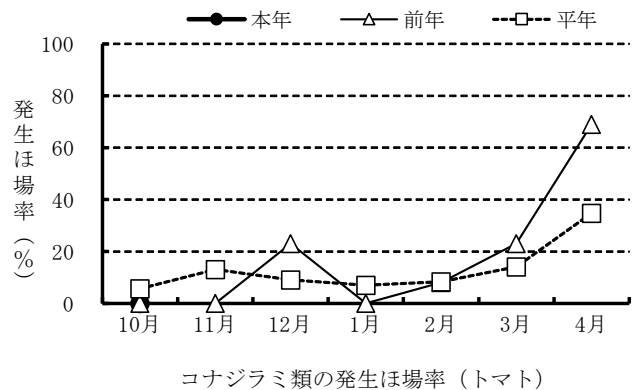
- (ア) 調査結果 発生量：並  
発生ほ場率 0% (平年3%)：並

(イ) 気象予報

気温：平年並か高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介する。生育初期に本病が発生すると被害が大きくなるので、黄色粘着トラップを設置して早期発見・早期防除に努める。
- (イ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤 (RACコード参照) のローテーション散布に努める。



### 3. ピーマン

#### (1) アザミウマ類

##### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや多

##### イ 予報の根拠

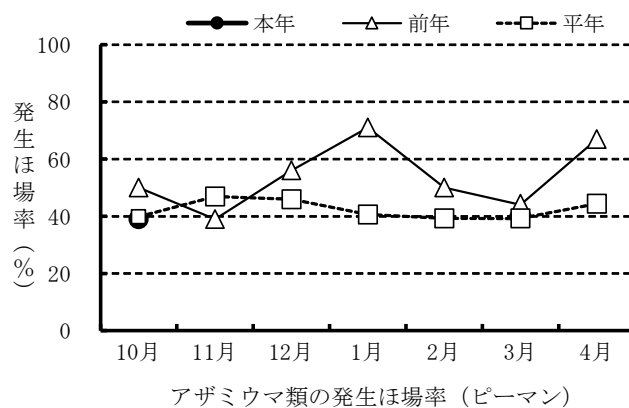
- (ア) 調査結果 発生量：並  
発生ほ場率39%（平年40%）：並

##### (イ) 気象予報

気温：平年並か高い（+）

##### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ピーマン黄化えそ病の病原ウイルスを媒介する。ハウス開口部（サイド等）等に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 花や新芽の中など薬剤のかかりにくい場所に生息するので、薬剤散布は丁寧に行う。
- (ウ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



### 4. イチゴ

#### (1) うどんこ病

##### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや少

##### イ 予報の根拠

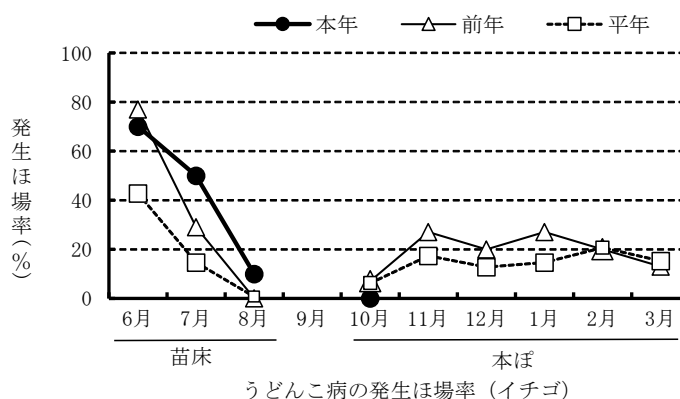
- (ア) 調査結果 発生量：少  
発生ほ場率0%（平年6%）  
：低い（-）

##### (イ) 気象予報

降水量：平年並か少ない（+）

##### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 防除は予防に重点を置く。上位葉に発生しやすいので、葉裏をよく観察し、早期発見と初期防除に努める。
- (イ) 薬剤は、葉裏に十分かかるよう散布する。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。
- (エ) 窒素肥料の過多や葉が混み合うと多発しやすいので、適切な栽培管理を行う。
- (オ) 発病葉などは早めに除去し、施設から持ち出して処分する。



(2) 炭疽病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少  
発生ほ場率0%（平成16%）  
：やや低い（-）

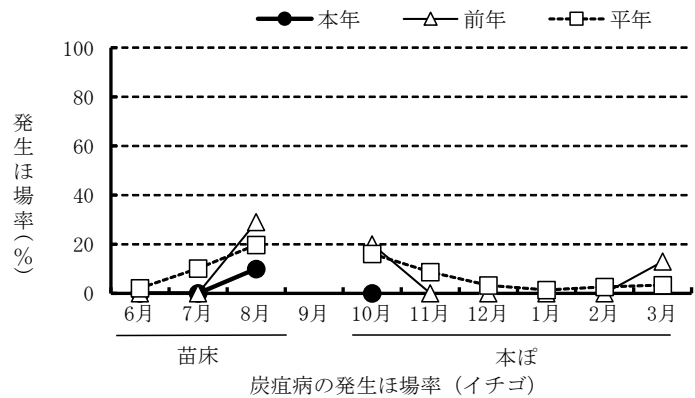
ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 防除は予防に重点を置き、新葉

の展開タイミングに合わせ10～14日間隔で行い、株全体にかかるよう十分量を散布する。発病が認められた場合は散布間隔を短縮する。

- (イ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

- (ウ) 萎凋した株や発病葉は早急に除去し、ほ場外で適切に処分する。



(3) ハダニ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多  
発生ほ場率82%（平成29%）  
：高い（+）

(イ) 気象予報

気温：平年並か高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

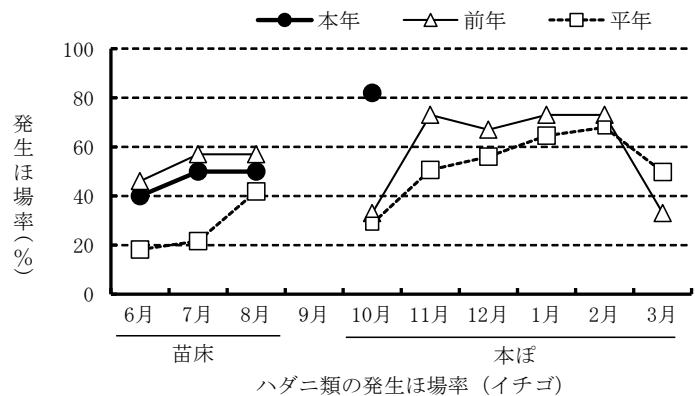
- (ア) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。

- (イ) 薬剤の防除効果を高めるため、下葉かきを行ってから葉裏にかかるよう散布する。

- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。

- (エ) 薬剤によっては感受性が低下しているため、散布後は防除効果を確認する（令和4年度技術情報第9号（11月29日付け）参照）。

- (オ) 薬剤によっては、ミツバチに影響があるので薬剤選定に注意する。





(4) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率 0% (平年 8%)

: やや低い (-)

(イ) 気象予報

気温：平年並か高い (+)

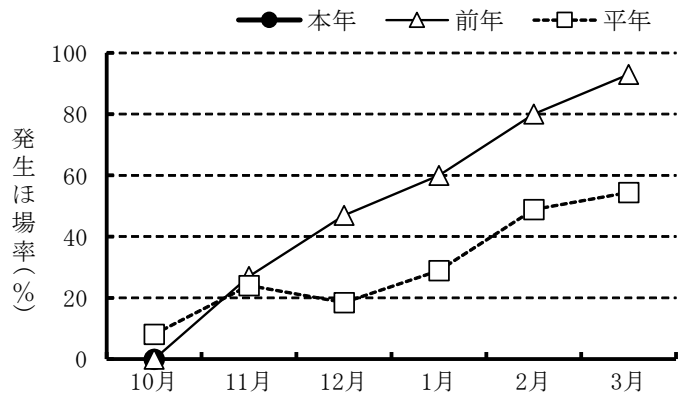
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) ハウス開口部 (サイド等) 等に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。

(イ) 花や新芽の中など薬剤のかかりにくい場所に生息するので、薬剤散布は丁寧に行う。

(ウ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。

(エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤 (RACコード参照) のローテーション散布に努める。



アザミウマ類の発生ほ場率 (イチゴ)

防除に関する今月の留意事項

1. トマトキバガ (令和3年度病害虫発生予察特殊報第3号参照)

県内2カ所に設置しているフェロモントラップの誘殺数が、10月に入り増加している (図1)。本虫のハウス内への侵入を防ぐため、コナジラミ類対策とあわせて0.4mm目合いの防虫ネットをハウスの開口部に設置する。



本虫の寄主植物はトマト、ナス、ピーマン、バレイショなどのナス科植物や、マメ科のインゲンマメ等である。本県ではこれまでに本虫による農作物への被害を認めていないが、トマトの被害は、葉では内部に幼虫が潜り込んで食害し、葉肉内に孔道が形成される。食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白~褐変した外観となる (図2)。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じるとともに、食害部分の腐敗が生じ、果実品質が著しく低下する (図3)。

なお、本虫の発生が疑われる場合は、病害虫防除所 (099-245-1157) へ連絡する。

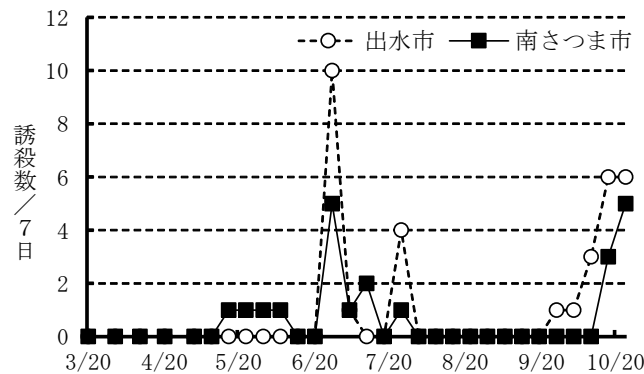


図1 フェロモントラップのトマトキバガの誘殺数 (令和5年)

※イノベーション創出強化研究推進事業 (JPJ007097) 侵入害虫トマトキバガに対する診断・発生予察手法の確立と防除技術の開発 (04019C) の支援を受けて調査を実施した。

(参考) トマトキバガについて

【写真提供：宮崎県総合農業試験場】



図2 幼虫に食害された被害葉



図3 幼虫に食害された被害果



図4 成虫：翅を閉じた状態で5～7mm  
翅は灰褐色で黒色斑が散在



図5 幼虫：終齢幼虫で約8mm  
体色は淡緑色～淡赤白色  
前胸の背面後縁に狭い黒色横帯

## 5. エンドウ類

### (1) うどんこ病

#### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 多

#### イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：多

発生ほ場率13% (平年0%)

：高い (+)

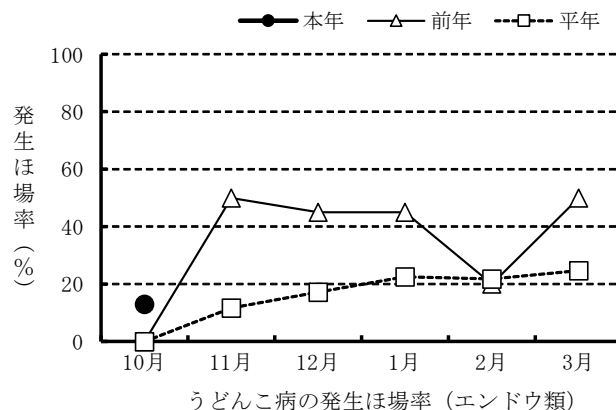
#### (イ) 気象予報

降水量：平年並か少ない (+)

#### ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 本年は平年より早い時期から発生が見られる。多発するとごま症の発生につながるので、早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。

(イ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤 (RACコード参照) のローテーション散布を行う。



### (2) ハモグリバエ類

#### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 並

#### イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率0% (平年18%)

：やや低い (-)

#### (イ) 気象予報

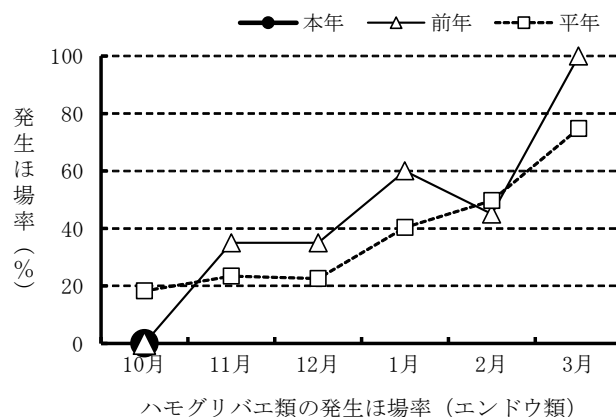
気温：平年並か高い (+)

#### ウ 防除上注意すべき事項

(ア) この時期の主な発生種はマメハモグリバエである。

(イ) 多発してからの防除は困難なので、初期防除に努める。

(ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤 (RACコード参照) のローテーション散布を行う。



(3) アザミウマ類

ア 予報内容

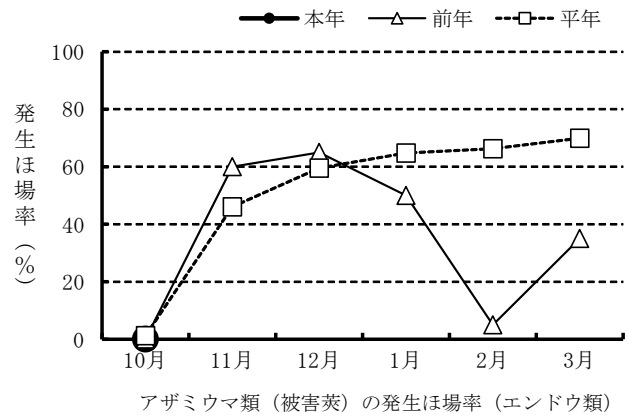
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並  
発生ほ場率0%（平年1%）：並
- (イ) 気象予報  
気温：平年並か高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 主な発生種はハナアザミウマである。
- (イ) アザミウマ類が若莢に産卵すると「白ぶくれ莢」となる。若莢の被害や青色粘着トラップへの誘殺から発生状況を把握し、初期防除に努める。
- (ウ) 薬剤のかかりにくい花卉の奥や若莢に寄生するので、丁寧な薬剤散布に努める。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



6. 野菜・花き共通

(1) ハスモンヨトウ

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県内全域
- (イ) 対象作物 キャベツ等アブラナ科野菜、イチゴ、トマト、根深ネギ、豆類(エンドウ類, ソラマメ, サヤインゲン), キク等

(ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

作物名	発生ほ場率 (%)		概 評
	本年	平年	
ト マ ト	0	7	並
ピーマン	11	6	やや多
イチゴ	27	25	並
ダイコン	38	-	-
キャベツ	17	20	並
エンドウ類	38	16	やや多
キク	30	2	多

注) ダイコンは令和5年度から調査を開始したため平年値なし

フェロモントラップ誘殺数

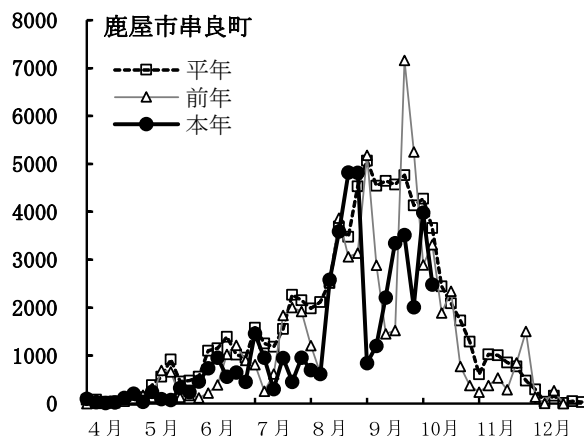
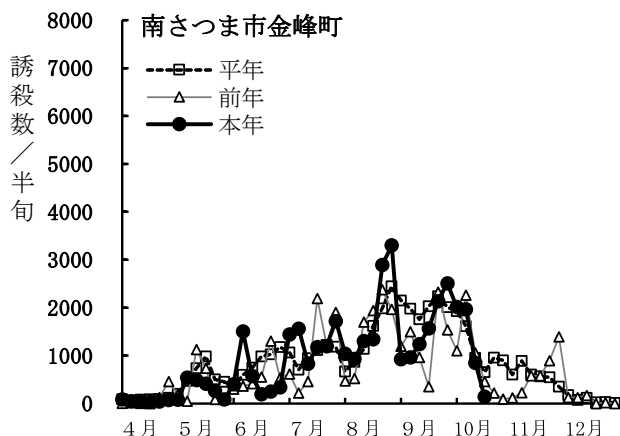
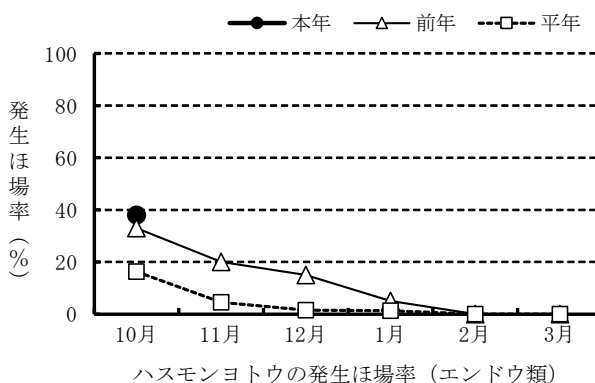
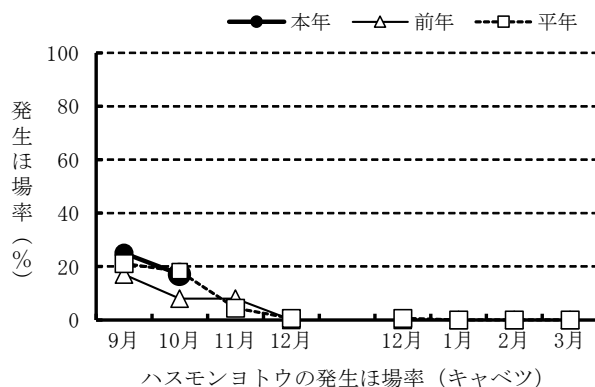
南さつま市金峰町：並, 鹿屋市串良町：並

(イ) 気象予報

気温：平年並か高い(+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 発生状況は、作物や各地域で異なるため、ほ場を見回り、幼虫の発生状況を確認する。
- (イ) 若齢幼虫は集団で表皮だけを残して食害(白変葉)するので、発生を目安にする。
- (ウ) 卵塊や若齢幼虫が寄生している葉は、見つけ次第摘み取り処分する。
- (エ) 中・老齢幼虫になると薬剤が効きにくいので、防除は若齢幼虫の多い時期に行う。
- (オ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤(RACコード参照)とのローテーション散布に努める。



フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況 (10月19日現在)

(2) シロイチモジヨトウ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 対象作物 キャベツ等アブラナ科野菜,  
豆類(エンドウ類, ソラマメ,  
サヤインゲン),  
キク等

(ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少

作物名	発生ほ場率 (%)		概 評
	本年	平年	
キャベツ	0	4	やや少
エンドウ類	25	19	並
キク	0	2	やや少

フェロモントラップ誘殺数

南さつま市金峰町：多い (+),

鹿屋市串良町：並

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

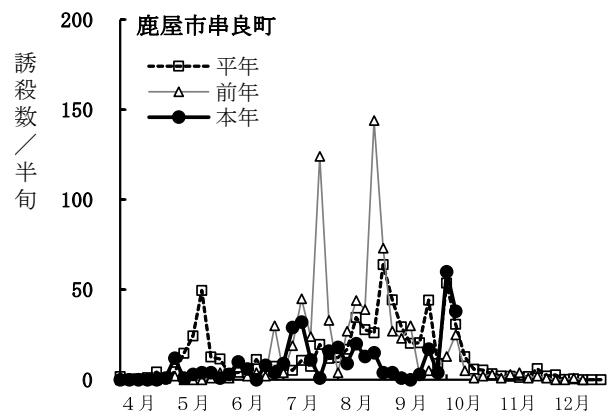
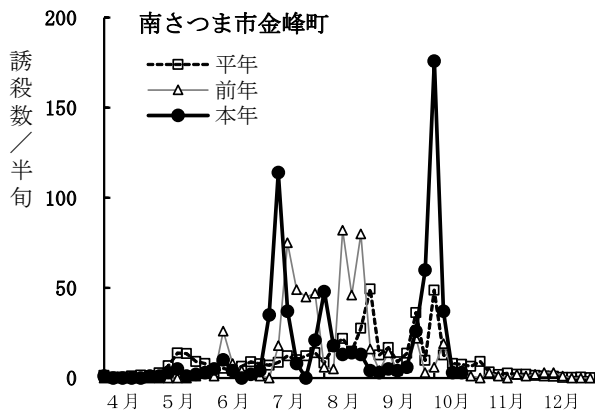
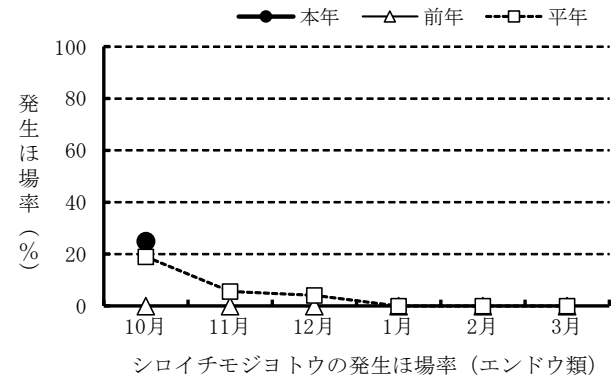
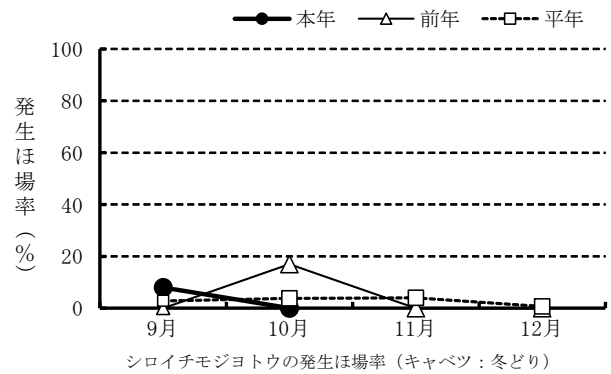
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 卵塊や分散前の若齢幼虫が寄生した葉はその都度摘み取り処分する。幼虫は葉をつづり合わせたり葉の内部に食入し、食害葉は網目状に白く変色するので、これを目安にする。

(イ) 特に生育初期の被害が大きいのでは場を見回り、寄生葉は見つけ次第摘み取り処分する。

(ウ) 薬剤防除は効果の高い若齢幼虫期に行う。

(エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤 (RACコード参照) とのローテーション散布に努める。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺状況 (10月19日現在)

### Ⅲ. 花き

#### 1. キク

##### (1) ハダニ類

###### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 やや多

###### イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率40%（平年36%）：並

###### (イ) 気象予報

気温：高い（+）

###### ウ 防除上注意すべき事項

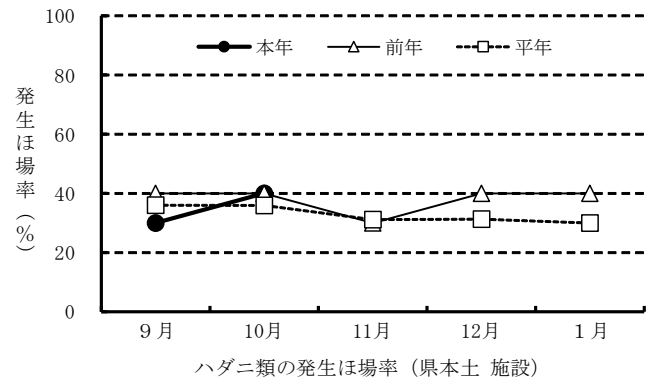
(ア) 出入口や前作での発生場所近く等でスポット状に発生する機会が多いので、ほ場全体をよく見回り、早期発見と早期防除に努める。

(イ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。

(ウ) 薬剤は葉裏までよくかかるように散布する。

(エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

(オ) 収穫後の残さは早めに除去し、適正に処分する。



##### (2) アザミウマ類

###### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土（施設） 並

奄美地域（露地） 多

###### イ 予報の根拠

< 県本土（施設） >

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率30%（平年41%）

：やや低い（-）

###### (イ) 気象予報

気温：高い（+）

< 奄美地域（露地） >

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率60%（平年40%）

：やや高い（+）

###### (イ) 気象予報

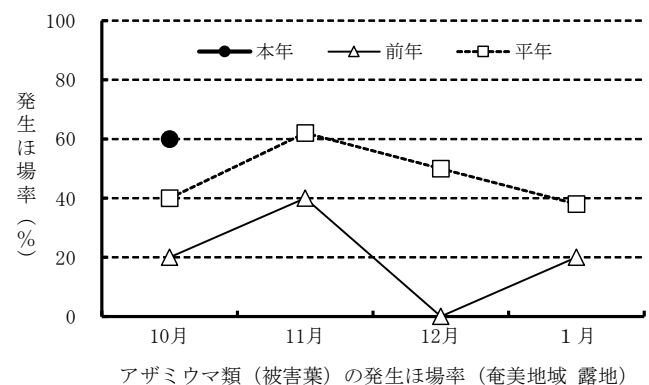
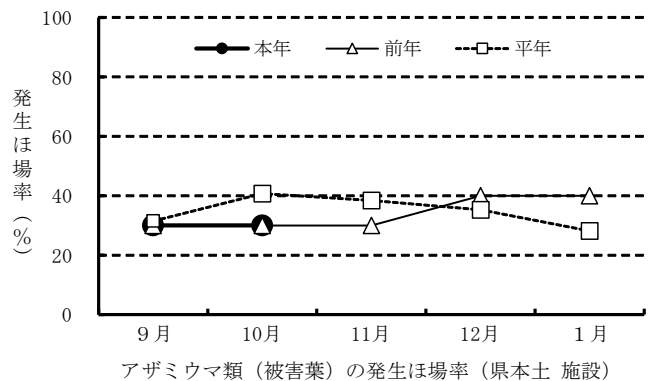
気温：高い（+）

降水量：平年並か少ない（+）

###### ウ 防除上注意すべき事項

(ア) アザミウマ類はキクえそ病（TSWV）、キク茎えそ病（CSNV）を媒介するので、ほ場への侵入防止と早期発見および早期防除に努める。

(イ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。



- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。
- (エ) クロゲハナアザミウマは中下位葉にも寄生しているため、薬剤は下葉の葉裏までかかるよう丁寧に散布する。
- (オ) 発生動向を把握するためには、出入口や開口部付近での青色粘着シートの設置が有効である。
- (カ) 収穫後の残さは早めに除去し、適正に処分する。



#### IV. 果 樹

##### 1. カンキツ

###### (1) かいよう病

###### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

###### (イ) 発生量

県本土・熊毛地域(果実) 並

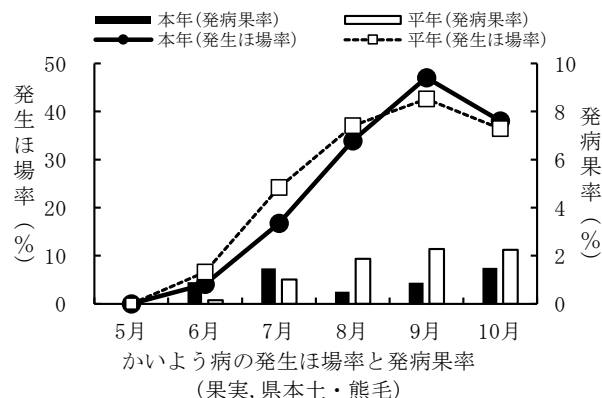
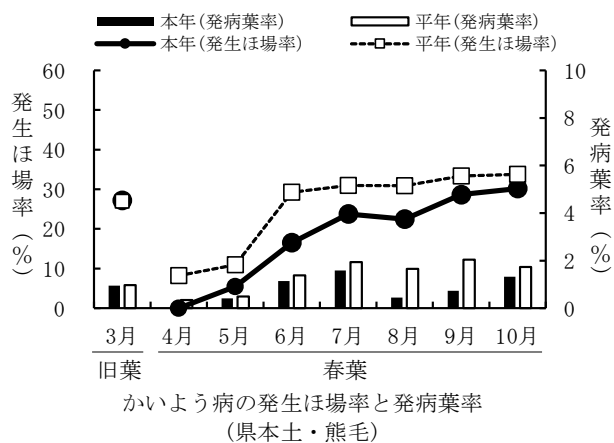
奄美地域(果実) 並

###### イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

###### (ア) 調査結果

	春葉	果実
発生量	並	並
発生ほ場率	30% (平年 34%) : 並	38% (平年 36%) : 並
発病率	1.3% (平年1.7%) : 並	1.5% (平年2.2%) : 並



<奄美地域>

###### (ア) 調査結果

	春葉	果実
発生量	並	並
発生ほ場率	14% (平年 17%) : 並	14% (平年 13%) : 並
発病率	0.1% (平年0.2%) : 並	0.6% (平年0.1%) : 高い (+)

###### ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 罹病葉を少なくするために、罹病した夏秋梢やミカンハモグリガの食害を受けた夏秋梢はせん除する。

(2) 黒点病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域 並

奄美地域 やや多

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 58% (平成61%)

：並

発病果率3.9% (平成13.8%)

：やや低い (-)

<奄美地域>

(ア) 調査結果 発生量：やや多

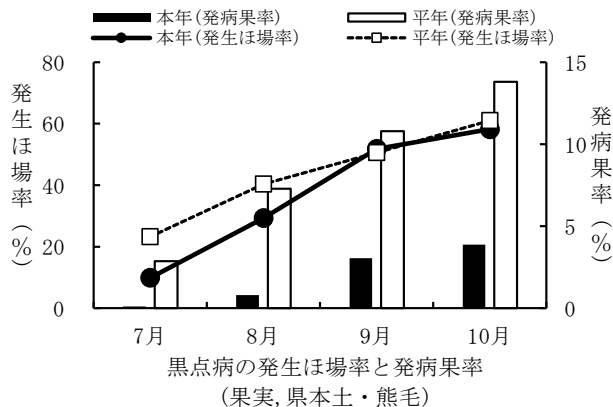
発生ほ場率 14% (平成6%)：やや高い (+)

発病果率0.4% (平成0.5%)：並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 多雨が予想される場合には予防散布を行う。

(イ) 伝染源となる枯れ枝はこまめにせん除し、せん定くずは園外に持ち出して処分する。



(3) ミカンハダニ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域 やや多

奄美地域 多

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率 36% (平成24%)

：やや高い (+)

寄生葉率2.7% (平成3.1%)：並

<奄美地域>

(ア) 調査結果 発生量：多

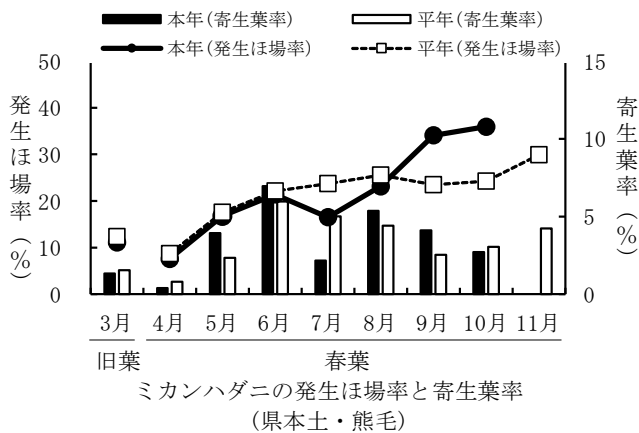
発生ほ場率 14% (平成3%)：高い (+)

寄生葉率0.1% (平成0.4%)：並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 1葉当たり雌成虫数0.5~1.0頭(寄生葉率で30~40%)を目安に防除する。

(イ) 同一系統薬剤の使用は年1回とし、葉裏までかかるように丁寧に散布する。



#### (4) 果実吸蛾類

##### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土・熊毛地域

(イ) 発生量 やや多

##### イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

被害ほ場率25% (平年17%)

: やや高い (+)

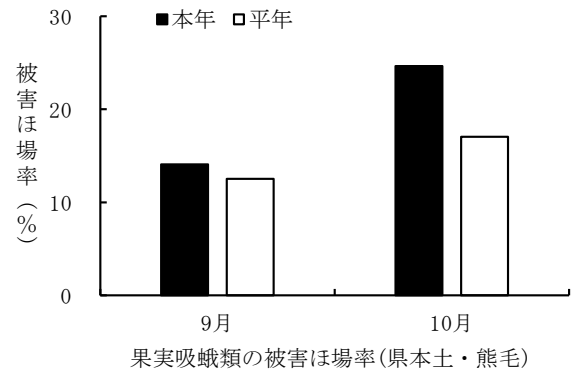
##### ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 夜間に活動し、果実を吸汁して腐敗落果さ

せる。飛来最盛期は、早生温州は10月上旬、

温州ミカンやボンカンでは11月中～下旬であるが、今年度のような夜温が高い年は遅くまで飛来するので注意する。

(イ) 網目5～10mmの防蛾網で被覆するほか、黄色灯を用いる場合はほ場全体が2Lux以上の明るさになるように設置する。



---

#### 防除に関する今月の留意事項

##### 【カンキツ】

##### 1. サビダニ類

(1) 昨年多発したほ場では発生する機会が多いので、防除に努める。

(2) 県内のほぼ全域に生息するリュウキュウミカンサビダニは、秋季以降も果実上で加害し続けるので、被害果を認めたら直ちに防除する。

##### 2. 貯蔵病害 (青かび病, 緑かび病, 軸腐病)

収穫時の気温が高く降雨が多いと腐敗果が発生しやすい。なお、軸腐病の病原菌は黒点病と同じ菌であるため、黒点病の発生が多いほ場では注意する。

(1) 貯蔵を要する普通温州や中晩柑類は収穫前に必ず防除する。

(2) 防除薬剤は使用基準を厳守し、収穫予定日を想定し、収穫前日数に注意して選定する。

(3) 収穫時には果実に傷をつけないように手袋を使用し、果梗部の二度切りは丁寧に行う。

## V 茶 樹

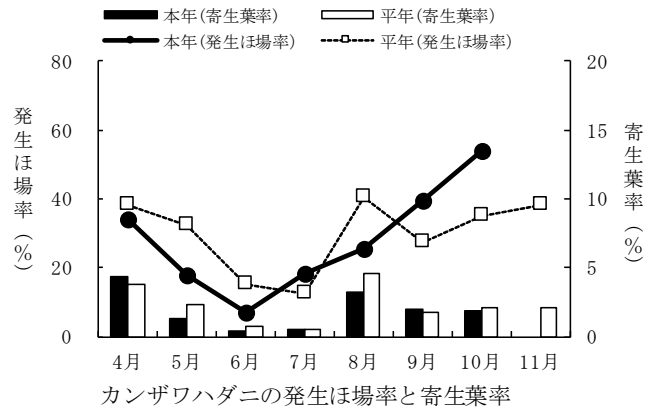
### (1) カンザワハダニ

#### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土  
(イ) 発生量 やや多

#### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多  
発生ほ場率 54% (平年 35%)  
：高い (+)  
寄生葉率 1.9% (平年 2.1%)：並



#### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 越冬前のカンザワハダニの密度は翌春の発生量に大きく影響するので、秋整枝後に防除を行う。発生が多い園では秋整枝直後と11月中旬～下旬に防除を行う。
- (イ) 天敵の活動が活発な時期なので、天敵に影響の少ない薬剤を使用する。
- (ウ) 薬剤は、葉裏や裾部に薬液が十分にかかるように散布する。

## 防除に関する今月の留意事項

### 1. チャトゲコナジラミ

多発するとは場一面に成虫が乱舞し、作業性を低下させるほか、幼虫が寄生した枝ではすす病が発生し光合成能力を低下させる。

- (1) 秋整枝および裾刈りは、寄生葉が除去され密度低下が期待される。
- (2) 発生が多い園では秋整枝後に薬剤を葉裏まで十分にかかるように散布する。
- (3) 本虫には天敵シルベストリコバチが有効なため、本天敵に影響の少ない薬剤を使用する。

## 農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。  
決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り、記載された用途、方法以外では使用しない。
2. 使用する農薬にあわせて、適切な防除衣、保護具（マスク・手袋など）を着用する。
3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。
4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。
5. 散布時には薬剤がほ場の外に飛散したり、流出したりしないよう十分注意する。
6. クロルピクリン剤は、住宅地および畜舎に隣接するほ場や、土壌が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。
7. 毒性が強い農薬は、施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。
8. 使用期限の切れた農薬、不要になった農薬および使用済みの空容器は適正に処分する。
9. 農薬は食品と区別し、鍵をかけて保管する。
10. 農薬の散布記録をつけておく。

### 「予報の根拠」の記載方法

- 調査結果の発生量は、前月の巡回及び定点調査による。
- 野菜類共通病害虫の発生量は、各作物での発生量やトラップ調査結果等を総合的に基づいた総合評価。
- 調査場所を記載しない発生ほ場率・発生数は、巡回調査の結果。
- 調査結果や気象予報等の末尾の（+）、（-）は、発生量の増加、減少要因を示す。
- 気象予報は、向こう1か月の長期予報。
- 平年値は原則として過去10年間の平年を用いている。